

令和2年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	キャリアデザイン特別講義②
期 日	令和2年10月9日(金)
会 場	本校
対 象	普通科文系2年生
目 的	各分野で活躍する研究者の講義を受けることにより、自ら学問研究を行う「知の探究者」としての姿勢を養うと共に、学部・学科研究を深める機会とする。また、研究の方法や研究に臨む姿勢を学ぶことにより、生徒が取り組む「SSRⅡ 課題研究」をより充実した物にする一助とする。
講 師	東京大学大学院人文社会系研究科文学部 教授 加藤 陽子 先生 同 准教授 村 和明 先生
内 容	オンラインで東京大学の先生による2つの模擬講義を受け、学問と社会のつながりや研究に対する姿勢を学ぶ。また、各学部の特徴についての説明を聞き、より明確な将来のビジョンを持てるようにする。
感想など	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学紹介では、何をするのが明確にわからなかった学部についても、具体例を出しながら分かりやすく説明していただいたので、「だいたいこういうことを学ぶ学部だろう」と思っていた学部でも「そんな視点から考えを広げるのか」という発見が多くあった。 ● 今まで、文系の学問は輪郭がぼやけていて、抽象的にしかイメージできなかったが、講義を聴き、質問して対話することで大学の魅力を肌で感じ、研究内容の興味深さに感銘をうけた。 ● 私は学科選びに困っていて、自分がどこに進むべきか、何を基準にしたらよいか悩んでいましたが、各学部の特徴の説明と、先生方の講義から「幸福」について聞く内に「自分の幸福に繋がる道」を基準に考えてみるのも良いかと思いました。 ● 「自分の意見を考えるために勉強する」という言葉がとても印象に残った。「問題から意見が生まれるわけではない」「好きな曲があったらなぜ好きか、何に惹かれているのか、何を求めているのかなど自分とお話することが大切」という言葉で、将来の目標がはっきりしていない焦りが少し和らいだように感じた。 ● 全体的にとっても難しい話だったが、理解できるととても興味深い内容だった。歴史を紐解いて分かった日本の戦前の姿や、先見の明のあった学者の考えに関する加藤先生の講義で、「歴史の闇」の存在を知ることができた。その中に没してしまった先人の問を明らかにする仕事である歴史家は大変興味深い仕事なのだと感じた。 ● 戦争をなくすことに対して加藤先生が回答された「拒否者のための道も作る」という考えに納得しました。誰もが戦争に兵士として行くことを望んでいるわけではなく、その人たちが生きやすいための工夫をこれから考え創りあげていくことが大事だと思いました。

- 村先生のお話では、「アト」「サキ」のとらえ方の違いに驚きがありました。私は、現代の考えである「サキに未来がある」と考えていたのですが、「前に見えているサキ＝過去」という考えを聞き、そうだなと思いました。だからこそ歴史を大切にすることが必要だと感じることができました。
- 村先生の「通俗道徳」論（安丸良夫）のお話が興味深かったです。「勤勉の成果で社会が発展した。それによって、『…貧乏だとすれば、右の通俗道徳は私が勤勉等々でないからだと教え、…』という考え方、つまり『うまくいかないのは努力が足りないせいだ』という考えが染みついた。」という話を聞き、確かに今の社会にはそういう風潮があるし、自分もそう思っている節があると感じました。それは今、過労死する人が多かったり、新社会人がすぐに会社をやめたりすることと少なからず関係があるのではないかと思いました。「勤労は美德であるという考え方…は危険である」と予想していた先人はすごいと思いました。
- 「歴史学とは何か」を知ることができ、進路を決める上でとても参考になりました。小さい頃から歴史に興味があり、先生方の話を聞いて歴史学は「ただ起こった出来事を学ぶのではなく、その時代の背景やその時代の人々の心理なども学ぶものだ」と知り、更に興味が湧きました。
- 質疑応答では、私も一度は考えたことのある問いが多かったので、すごく為になるな、と思いました。死や戦争についてなどは今まで小学校の頃からどうしたらよいかと考えさせられることはあっても、それを学問の視点も交えて大人に尋ねることはなかったので、とても新鮮な感じがしました。新たな疑問も見つかったので、身近な人と話し合いたいと思います。



オンライン講義



質疑応答